

幼児期に必要な子どもの発達

社会性を育む「愛着」

「愛着」とは、子どもと母親・父親などの養育者との間に生まれる情緒的な絆のことを指す言葉です。愛着と安定した親子の関係が、子どもの社会性を育みます。今回は、心の絆「愛着」について紹介します。

問い合わせ 健康づくり課発達支援係(プラザけやき内☎37-1136)



■愛着とは

「この家に愛着がある」「物に愛着が湧く」などのように、慣れ親しんだ物に対して強く深い思いを抱くこととして「愛着」という言葉が一般的に浸透しています。しかし、子どもの発達における「愛着」は、人や動物との情緒的な結び付きのことを指します。愛着は、子どもの健やかな成長に欠かせないもので、脳の発達にも関わると言われています。乳幼児期にお母さんやお父さんとの愛着の形成が十分されるかどうかによって、子どもの心の発達や人間関係に大きく影響すると考えられています。

■愛着の形成

愛着は、生まれた時から身につけているわけでも、突然得られるものでもありません。愛着の形成は、出産後の世話やスキンシップなどの密接な行動によって深まっていきます。また、子どもは、自分を受け入れ、守ってくれる存在に対して本能的に愛着を形成します。そのため、多くの場合、母親が最も強い愛着形成の対象となります。

子どもは、愛着が形成されることで、自分自身の存在を肯定し、価値のある存在だと実感することができます。また、幼児期にしっかりと愛着が形成された子どもは、親以外の人も安定した人間関係を築いていくことができ、社会性が育まれていきます。



子育てひと言 POINT



赤ちゃんとの触れ合い遊びなどのスキンシップやアイコンタクトを行うことで、赤ちゃんは人の温かみや情緒を感じています。また、言葉はしゃべれませんが、お父さんやお母さんの言葉を理解して、反応してくれます。このような関わり合いをすることが、親子関係を築く上で非常に重要です。

■愛着行動

愛着行動とは、愛着関係にある母親・父親などに対して親密さを求める行動のことで、生後6カ月頃から始まり、およそ2歳頃まで活発に現れます。子どもがする愛着行動には、下記のような行動が挙げられます。このような行動で、母親や父親などの注意を引き、愛情のこもった反応をしてもらうことで、愛着関係を築いていきます。

さまざまな愛着行動の例

- ・愛着者をじっと見つめるなどのアイコンタクト
- ・愛着者に付いて回る、だきつくなどの接近行動
- ・赤ちゃんが手足をバタバタさせる
- ・愛着者などを目で追って探す
- ・愛着者の声がする方向に振り向く
- ・泣いたりして、愛着者に信号を送る

愛着は、子どもを支える根幹となります。子どもの心に愛着が根づいていくには、日々の支えが必要です。赤ちゃんの時だけでなく、大きくなって一緒に楽しむ体験の一つひとつが、親子の安定した関係づくりと社会性の発達につながります。菊川市では、「7カ月児相談」や「1歳お誕生月広場」で愛着形成に結び付く遊びを紹介しています(日程は、本紙12ページにある健康カレンダーなどをご覧ください)。また、下記の体験例を参考に、ぜひお子さんと遊んでみましょう。

子どもの興味に大人が合わせて、愛着を形成する体験例



▲キャッチボール



▲じゃれ合い



▲おままごと



◀好きな物や体をとおして触れあう